

中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会

同窓会々誌

同窓会創立50周年記念号



撮影 大越 功氏

2004-10 第41号

平成16年度総会・懇親会は11月13日(土)

中央大学校歌

石川道雄 作詞

坂本良隆 作曲

一、草のみどりに風薫る

丘に目映き白門を

慕い集へる若人が

真理の道にはげみつゝ

栄ある歴史を承け伝う

あゝあゝ中央、我等が中央

中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも

揺るがぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで

みのりの秋やめざすらむ

学びの園こそ豊なれ

あゝあゝ中央、我等が中央

中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今

新しき世のあなほらけ

胸に血潮の高鳴りや

湧く歌声も晴れやかに

自由の天地ぞ展けゆく

2004年10月 第41号 目次

同窓会創立50周年記念号

中央大学校歌	2
ごあいさつ	天野 浩志 4
同窓会50年のあゆみ	5
同窓会新規入会者のご紹介	8
名誉教授 梅原忠利先生を偲ぶ	遠藤 正雄 9
訃報	9
電気電子情報通信工学科の近況報告	白井 宏 10
中央大学定年退職に当たって	遠藤 正雄 13
修士論文発表会同窓会賞創設	15
修士論文発表会同窓会賞を受賞して	櫻井 宏樹 17
科学と技術の一考察	菱沼 一夫 20
着任のご挨拶	羽鳥 光俊 22
会誌発行事業費の集計報告・その3	23
着任のご挨拶	庄司 一郎 24
高原の風	市川 友之 25
平成14年度 会計報告	26
平成15年度 会計報告	27
昭和38年卒同期会	小島 豊 28
トドの詰まり文化論・その8	菱沼 一夫 30
同窓生からのお便り	36
編集後記	39
同窓会総会・懇親会開催のお知らせ	40



ごあいさつ

会長 天野浩志

会員の皆様お元気にお過ごしのことと拝察申し上げます。同窓会創立50周年記念号をお届けいたします。

昭和30年(1955年)、広瀬敬一先生が初代会長に就任して同窓会が設立されて以降、現在までに延べ12代の会長をはじめ役員、常任幹事、幹事、会員の皆様のご尽力、ご協力により50周年を迎えられましたことは誠に喜ばしい限りと感謝申し上げます。「同窓会50年のあゆみ」は別掲の記事をお読み下さい。記事をまとめるに当たり、同窓会誌創刊号から第37号までを全巻欠かさず保管され提供して頂きました小林健一先生、遠藤正雄先生に謝意を表します。

平成11年には財政危機が顕在化し、同窓会の存続が危ぶまれましたが、平成13年から募金を開始しました「会誌発行事業費」に対しまして皆様から多くのご芳志を頂き、危機を脱することができました。これは、現在も年に数人ですがご芳志を寄せて下さる方があり、同窓生の同窓会に対する熱き思いを感じており、感謝に堪えません。

この1年間の学科の動静をお知らせ致します。

本年3月末に、遠藤正雄教授が定年退職されました。教育技術員の柴田健次さん、赤木正宣さん、関信孝さんが任期満了により退職されました。

4月から、羽鳥光俊教授(通信工学、放送工学)、二本正昭教授(情報記録、磁性材料、薄膜、表面

物理)、庄司一郎専任講師(レーザ、非線形光学)が着任されました。教育技術員は、長谷川寛さん、崔通さん、渡邊義基さんが新たに着任されました。また、稲葉次紀教授が米国ミネソタ大学へ在外研究のために赴任しております。

同窓会事業では、初めての試みとして大学院博士課程前期修了予定者による「修士論文発表会」の優秀論文に「同窓会賞」を設け、幹事が審査員となり厳正なる審査の結果、4人の方々に賞状ならびに副賞を贈呈しました。

この企画は、今後も続けていき大学院の研究の活性化に繋げていくために微力ながら貢献したいと考えております。詳細は、別掲の修士論文発表会に関する記事をお読み下さい。

月刊「技術士」2004年7月号に2003年度までのJABEE認定プログラムが発表されております。61大学・高専、107コースが紹介されており、その中に中央大学理工学部は含まれておりません。誠に残念なことです。一日も早く本学科がJABEE認定プログラムの教育機関として認定されることを切望します。そのために同窓会として出来得る限りのバックアップをしたいと考えております。

(昭和39年卒)

同窓会ホームページ URL : <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qindex.htm>

同窓会50年のあゆみ

(同窓会会誌 第1号～第40号から)

年度	会 長	副会長	総 会	会 誌	特 記 事 項
S28			第1回 湯島聖堂		1期生卒業、文京区元町2-37
S29			第2回(29.5.30) 函徳亭		
S30	広瀬 敬一	原田保之助	第3回(30.2.17) 西園寺記念館	第1号 (30.6.1)	同窓会設立
S31	〃	〃	第4回(31.5.13) 中大会館		
S32	〃	〃	第5回(32.6.9) 中大会館		
S33	〃	〃	第6回(33.6.10) 中大会館		
S34	〃	〃	第7回(34.5.31) 浅草鮎忠	第2号 (34.5.31)	
S35	〃	〃	第8回(35.6.26) ニュートウキョー		
S36	原田保之助	吉久 信幸	第9回(36.6.25) 黒門会館	第3号 (36.10.1)	広瀬先生学部長就任
S37	〃	〃	第10回(37.7.1) アサヒピアホール		
S38	〃	〃	第11回 理工食堂	第4号 (38.6.1)	後樂園キャンパス竣工、移転 文京区春日1-13-27
S39	〃	〃	第12回(39.6.21) 第一ホテル	第5号 (39.6.1)	上田先生、東条先生定年
S40	〃	吉江實成彦 小林 健一	第13回(40.6.27) 湯島会館	第6号 (40.6.1)	副会長2名制発足 原田先生定年
S41	広瀬 敬一	〃	第14回(41.7.3) ホテルオークラ	第7号 (41.6.11)	北村覚一教授新任 7月、関西支部結成
S42	〃	〃	第15回(42.7.9) 治 作	第8号 (42.6.20)	中井達人教授新任 広瀬、谷、大塚、各先生定年 原田先生御逝去
S43	吉久 信幸	〃		第9号 (43.6.25)	榊原剛専任講師新任

年度	会 長	副会長	総 会	会 誌	特 記 事 項
S44	吉久 信幸	吉江實成彦 小林 健一	第16回(44.7.14) 国際飯店		
S45	〃	〃	第17回(45.11.29) 芝留園	第10号 (45.11.29)	木下源一郎専任講師新任 篠田庄司専任講師新任
S46	〃	〃			会計監査2名をおく。 服部修一、遠藤正雄
S47	〃	〃			谷先生御逝去
S48	大類 浩	〃	第18回(48.11.17) 八洲電機ビル	第11号 (48.11.2)	総会を幹事会社にて委託 中井先生御逝去
S49	〃	吉江實成彦 遠藤 正雄	第19回(50.2.8) 三笠会館	第12号 (49.12.20)	寺西先生退職
S50	〃	〃	第20回(51.3.13) コックドール	第13号 (51.2.3)	佐藤先生御逝去
S51	〃	〃	第21回(52.3.5) 芝留園	第14号 (52.2.1)	
S52 ~53	〃	〃	第22回(53.3.27) 新宿豪華	第15号 (53.4.20)	
S54	吉江實成彦	竹中 四朗 黒崎 勝吉 遠藤 正雄	第23回(54.6.9) 多摩キャンパス	第16号 (54.5.1)	
S55	〃	〃	第24回(55.7.5) 航空会館スエヒロ	第17号 (55.6.26)	常任幹事会発足 在校生との懇談会(55.7.5) 後楽園校舎増築記念植樹
S56	〃	〃	第25回(56.7.4) 中大理工	第18号 (56.6.10)	第2回懇談会(56.5.8)
S57	〃	〃	第26回(57.7.3) 航空会館スエヒロ	第19号 (57.6.10)	第3回懇談会(57.5.8)
S58	鈴木 克郎	〃	第27回(58.7.2) 東方会館	第20号 (58.6.10)	第4回懇談会(58.5.26) 小林一哉専任講師新任
S59	〃	〃	第28回(59.7.7) 東方会館	第21号 (59.6.15)	山下先生御逝去
S60	黒崎 勝吉	堀中 武和 川喜田良行 市川 友之	第29回(60.11.2) 理工学部5号館 地階食堂	第22号 (60.6.1) 百周年号	顧問制度発足 吉江實成彦、鈴木克郎 古屋清専任講師新任

年度	会 長	副会長	総 会	会 誌	特 記 事 項
S61	黒崎 勝吉	堀中 武和 川喜田良行 市川 友之	第30回(61.11.8) 東京丸の内ホテル	第23号 (61.10.1)	北村覚一先生御逝去
S62	川喜田良行	堀中 武和 市川 友之	第31回(62.11.7) 東京丸の内ホテル	第24号 (62.10.1)	大越氏撮影富士山表紙スタート 徳丸洋三先生新任 築山修治先生新任 白井 宏先生新任
S63	〃	〃	第32回(63.11.5) 中大理工5号館	第25号 (63.10.1)	梅原忠利先生定年 猪狩武尚先生理工学部長就任
H 1	堀中 武和	大越 功 青木 義雄 市川 友之	第33回(1.11.3) 中大理工5号館	第26号 (1.10.1)	大類 浩先生定年 東条喜一先生御逝去 伊藤 登先生新任
H 2	〃	〃	第34回(2.11.3) 中大理工5号館	第27号 (2.10.1)	広瀬敬一先生御逝去 電気・電子工学科に改称
H 3	〃	〃	第35回(2.11.9) 中大駿河台記念館	第28号 (3.10.1)	伊藤 登先生御逝去
H 4	〃	〃	第36回(4.11.3) 南国酒家	第29号 (4.10.1)	福沢 實先生定年 杉本靖博先生新任 趙 晋 輝先生新任 牧野光則先生新任
H 5	青木 義雄	大越 功 秋山 浩徳 天野 浩志	第37回(5.10.30) 南国酒家	第30号 (5.10.1)	吉久信幸先生定年
H 6	〃	〃	第38回(6.11.5) 南国酒家	第31号 (6.10.1)	深井 昌先生定年 安藤敏雄先生定年 稲葉次紀先生新任
H 7	〃	〃	第39回(7.11.11) 後楽園飯店	第32号 (7.10.1)	阪神淡路大震災発生 (1.17)
H 8	〃	〃	第40回(8.11.9) 後楽園飯店	第33号 (8.10.1)	牧野光則先生情報工学科転出
H 9	天野 浩志	大越 功 秋山 浩徳 菱沼 一夫	第41回(9.11.8) 茗溪会館	第34号 (9.10.1)	小林健一先生退職 有馬純照先生定年 鈴木昭太郎先生定年 山口高文先生定年 高窪 統先生新任 國井康晴先生新任

年度	会 長	副会長	総 会	会 誌	特 記 事 項
H10	天野 浩志	大越 功 秋山 浩徳 菱沼 一夫	第 42 回(10.11.14) 中大理工 5 号館	第 35 号 (10.10.1)	山村清隆先生新任 同窓会ホームページ開設
H11	〃	〃	第 43 回(11.11.13) 文京シビックセンター	第 36 号 (11.10.1)	理工学部創立 50 周年記念号 財政危機が表面化
H12	〃	〃	第 44 回(12.11.11) 東天紅新宿店	第 37 号 (12.10.1)	電気電子情報通信工学科へ 名称変更
H13	〃	〃	第 45 回(13.11.17) 恵比寿ガーデンプレイス	第 38 号 (13.10.1)	会誌発行事業費募金開始 新 3 号館建設工事始まる 同窓生からのお便り掲載開始
H14	〃	市川 友之 菱沼 一夫 萩野 征治	第 46 回(14.11.9) 摩天楼大飯店	第 39 号 (14.10.1)	猪狩武尚先生定年 市川友之先生定年扱退職 会誌発行事業費約 170 万円
H15	〃	〃	第 47 回(15.11.8) 東京電力(株) 技術開発センター	第 40 号 (15.10.1)	榊原 剛先生御逝去 新 3 号館竣工 8 学科同窓会コメント時計寄贈

平成 15 年度 同窓会新規入会者のご紹介 平成 16 年 5 月 1 日現在

研究室名	入会数	入 会 者 名 (敬称略)
稲葉研	3	原 正行 牛島崇大 前 蘭 悟
遠藤研	1	栗原純一
木下研	0	
國井研	5	北澤誠之 石丸佳範 関 雄太 潮田隆広 徳永英海
小林研	1	川原佑介
篠田研	4	*北川正史 *田中规之 *松宮梨香 *李 丹
白井研	3	久賀谷 亮 白木 茜 *鈴木慎二郎
杉本研	1	木野田房郎
高窪研	1	溝神正和
趙研	0	
築山研	4	北之防敏秀 星野博之 大和康之 高井宣幸
徳丸研	3	小峯美智雄 伊藤洋介 高木正友
山村研	3	*安藤 真 *大熊秀明 *北川岳寿
合 計	29	*印：大学院終了者



電気電子情報通信工学科の近況報告

電気電子情報通信工学科教授 白井 宏

同窓会からは、本学科に対し、いつも多大なるご協力・ご援助を頂き、誠にありがとうございます。最近学会等の諸事業と重なり、私も同窓会の総会へ参加できなく、皆様とお話する機会を設けることができなくて、大変申し訳なく思っております。特に同窓会長の天野様には、ご多忙中のところ、毎回学科の入学式・卒業式にはご挨拶を頂いております。また昨年度は、新しく大学院博士課程前期の学生に対しまして、同窓会賞を新設頂きまして、修士論文発表審査会には、年度末のお忙しい時期にもかかわらず、選考審査のため同窓会執行部の方々にご参加頂きありがとうございました。おかげでいままです専攻内に閉じていたような感じの発表会も、OB が参加していただいたことにより、今まで以上に引き締まったよいものとなり、聴講している在校生にもいい刺激になったと思います。

今年度、私が電気電子情報通信工学科の学科主任をやらせていただいております。同窓会から最近の学科の近況を書いてほしいといわれましたので、貴重な会誌の一部をお借りして私から報告させていただきます。

私も中央大学の本学科に赴任しまして早くも17年を過ぎました。徳丸先生、築山先生と一緒に赴任しましたが、その当時から在職されている方は木下先生、篠田先生、そして小林先生であり、若いつもりでもいつの間にか古株の部類になってしまい、学科の先生方の顔ぶれもどんどん新しくなっております。特に昨年度は

いろいろな意味で大きな変化がありました。紙面の都合上、ここでは全部をお伝えできませんが、詳しくはインターネットで学科のホームページ (<http://www.elect.chuo-u.ac.jp/>) を見ていただくのが一番と思います。同窓会のページもリンクしてありますので、遠方の方も是非アクセスしてみてください。

まず45年間という長きにわたり教鞭をとられ、本学科のために尽くしてこられた遠藤正雄先生がこの3月をもちまして、定年退職を迎えられ名誉教授になられました。遠藤先生はちょうど私が赴任した時に学科の主任をされており、いろいろと面倒を見ていただいたのを思い出します。最終講義には遠藤研の卒業生をはじめ、たくさんの方が聴講され、その後の懇親会も大変盛況で昔話で盛り上がっていました。遠藤先生長い間本当にご苦労様でした。

次に残念なお知らせですが、しばらく体調を崩され、入退院を繰り返されていた榊原剛先生が昨年の6月について帰らぬ人となりました。榊原先生のお部屋が私の部屋の隣だったこともあり、今でもふと現れそうな気がしています。享年69歳、あと一年で定年を迎えられるところであり誠に残念です。謹んでお悔やみ申し上げます。

もうひとつ残念なお知らせは、趙晋輝先生が本学科から情報工学科へ移籍されたことです。昨年度末で、情報工学科の辻井重男先生が定年退職されるのに伴い、辻井先生の後任として、これまで辻井先生と暗号分野において一緒に

研究し、世界的な業績を上げてこられている趙先生に、是非情報工学科へ移籍していただきたいというラブコールがかかりました。皆さんも新聞等でご存知かと思いますが、平成 14 年度から始まった文部科学省の 21 世紀 COE プログラム、いわゆる「大学研究トップ 30」は、昨今の大学評価・ランク付け問題と関連してマスコミ等をにぎわしています。中央大学では初年度から、辻井重男先生をプロジェクトリーダーとした「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」の研究拠点プログラムが採択されており、このプログラムにはうちの学科からも篠田先生、趙先生、山村先生と白井の 4 名が参加しております。この拠点プログラムの中心となる専攻が、情報工学専攻であり、趙先生には、情報工学科を退任されて機構教授として引き続きプロジェクトを推進する辻井先生の補佐役として情報工学科で本プログラムの核となっていたいただきたいということです。本学科としても大きな痛手となりますが、中央大学全体のためということで、しばらくは本学科の教育も続けていただくということで移籍に同意しました。

また稲葉先生は、大学から在外研究の機会を与えられ、4 月から日本を離れ最初はアメリカ合衆国のミネソタに、そして現在はドイツのミュンヘンで学務に追われることなく、研究に専念されていることと思います。後期にはまた元氣なお顔がすぐに拝見できることでしょうし、在外研究中のいろいろな貴重なご体験をご報告していただけることと思います。

以上のような事情で、学科の教員枠は 3 名の欠員となり、この欠員を埋めるために、関連諸学会の会誌等を使って急遽公募をしました。急な公募にもかかわらず、百名を超える方々からの応募がありました。皆さん優秀な方ばかりで、分野や年齢等を勘案して書類選考と面接で絞りました。こうしてこの 4 月から羽鳥光俊教授、

二本正昭教授、庄司一郎専任講師の 3 名をお迎えしました。

羽鳥先生は、学生時代から教官になられ定年退官されるまで東京大学でずっとご活躍された方であり、東京大学を定年退官後は、国立情報学研究所へ移られ、今年度から本学科へ着任されました。デジタル放送をはじめとしたわが国の情報通信や放送行政関係では、指導的な立場の重責を果たしていただいております。IEEE、電子情報通信学会の Fellow でもあり、皆さんもお名前をご存知のことと思います。羽鳥先生の数々の業績に対してこの 5 月には電子情報通信学会から名誉員に推薦されました。二本先生は、大阪大学をご卒業後、永らく日立製作所の中央研究所に勤務されており、ハードディスクに代表される記録・メモリ材料の専門家で、IEEE の Fellow として社会の第一線でご活躍の研究者です。また庄司先生は北海道のご出身で、東京大学で学部、大学院、技官、助手として非線形光学材料の研究をされ、その後、岡崎にある分子科学研究所に移られて研究を続けられていました。2001 年には応用物理学会の講演奨励賞を受賞されるなどの活躍をされている注目の若手の先生です。今まで学科内で一番若かった國井先生より若い、パワーあふれる先生が赴任されて来たことは、大変うれしい限りで、学生にも、また高齢化していく学科の教員にもいい影響を与えてくれると期待しています。

教員のほかに、教育技術員の方々も移動がずいぶんありました。実験講師の先生方が退官されたあと、学生実験の指導について中心的な役割をしていただき、学科の運営にもいろいろご協力いただいている教育技術員は、任期制ではありますが、永らく務められた赤木正宣さん、柴田健次さん、関信孝さんの 3 名が退職されました。実験室の運営では大変なご尽力を頂き、ありがとうございました。これらの方に代わって

新たに崔通さん（86年電気学部卒、88年修士了、福沢研出身）と渡邊義基さん（95年電気学部卒、97年修士了、稲葉研出身）が新たに加わりました。任期制の事務職ということでなかなか若い優秀な方々を教育技術員に取りにくく、今でも同窓会からのご推薦により、囑託扱いで壮年の方々にもご活躍いただいているのが現状です。皆様からの更なるご推薦をお願いしたいと思います。

同窓生の皆様にとっても、卒業から年月を経

て自分の教えていただいた恩師の先生が退官され、その研究室もなくなると、母校の近くに来てなんとなく訪問しにくくなってしまっているかもしれません。在学中に教えていただいた先生が全くいなくなっていることもないでしょうから、近くにいらしたときは是非母校をお訪ねください。

最後になりましたが、電気同窓会の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



中央大学定年退職に当たって

名誉教授 遠藤正雄

以下の文章は、電気工学科同窓会会誌創刊号(昭和30年6月1日発行)の巻頭言です。

「学窓を巣立ちして幾星霜(いくせいそう)。われら電気科の歴史未だ浅きも、青春の情熱は同窓の集いを育み(はぐくみ)、いままた同窓の誌を生みたれば、君が膝下(しつか)に送らむ。

これぞわれらが常々の思考、見解、瞬時心の琴線(きんせん)に觸れし感情の迸り(ほとぼしり)、或いは徒然(つれづれ)なるままに心に描きし夢想の片鱗(へんりん)なり。集いたる文は、われらが眞実と情熱を傾けし労作なれば、心静かに緋(ひもとぎ)給え。相共に胸襟(きょうきん)を開きて語らう睦みの絆(むつみのきずな)にして、会友が知性を練磨し、教養の向上に資するは必定(ひつじょう)たるべし。大器晩成の信を抱き、此処に一粒の麦を蒔きたり。」

編輯者(へんしゅうしゃ)吉江實成彦、長田孝弥(一期生)によりスタートした同窓会誌の趣旨は色あせる事なく、その後多くの方々の努力によって現在に引継がれていることは誠に同慶の至りです。

私は本年(平成16年)3月をもって中央大学を定年退職(70才)しました。1月31日の最終講義(5533号大教室)及びOB会懇親会(新棟31407号室)には大勢の皆さんにお出で頂き有難うございました。厚く御礼申し上げます。

昭和34年(1959年)4月中央大学工学部に勤務して丁度45年になります。その間の研究経緯については最終講義「高電圧分野の研究教育の流れと時代背景」でお話しました。特に3号棟(実

験棟)の高電圧実験室は建設当時(昭和38年度)評判となり多くの見学者で賑いました。その後、理工学部的发展と共に校舎は増築されてきましたが(昭和55年(1980年)4号棟5号棟増築)情報工学科新設に伴い手狭となり、永い間新棟の建設が検討されてきました。その結果、3号棟跡に新棟(平成14年(2002年)地下2階、地上14階)が建設されたわけです。それを機会に今までの高電圧実験装置は廃棄し、学生実験用の小型の新装置を購入しました。昭和38年の実験設備の導入から解体廃棄、そして新装置の購入まで、まさに3号棟と共に歩んできたこととなります。そして退職時のOB会懇親会を新装なった3号棟14階で盛大に行えたことは誠に感無量でした。

さて、退職に伴って図書、実験機材、書類等種々整理に忙殺されました。それでも試料整理は間に合わず一旦自宅に運び少しずつ整理しているところです。その中で同窓会に関係する幾つかの試料を紹介しましょう。

理工学部は1999年で創立50周年を迎え、記念祝賀会が行われ、中央大学理工学部創立50周年記念誌「新世紀へのいしづえ」が発行されました。理工学部発足当時からの経緯(吉久先生のご執筆)やその後の発展の様子など詳細に伺い知ることができます。また、電気工学科同窓会は、同窓会誌100号記念号(中央大学100周年記念号、同窓会誌22号)を1985年6月30日(昭和60年)に発行しました。その中には各先生方、OBの方々のメッセージが掲載されています。そこで昭和60年以降、私の印象に残っていることを述べてみた

いと思います。

先ず、昭和年代の最後から平成の初めにかけての所謂バブル景気の時代、企業人事部の方やOBの大学訪問が盛んな時代、就職担当教員は30分毎に訪問接待を余儀なくされたことです。廊下には何人もの方が並ぶ有様で驚異的な求人倍率でした。常に感じてきたことは卒業生の皆さんの努力と人柄が社会に高く評価され、多くの企業から推薦依頼を頂けるということでした。このことは後輩にとって大変な難いことですし、教員にとっては誇りです。強い求人要請にも拘らず、希望学生を差し向けることができなかつた企業も多く、申し訳なく思ったり勿体無いのになあと感じたりしたものです。また一方においては、本人の不向きを思って別の企業を薦め本人の希望通りに行かなかつた事例などもあり、今でも心を痛めています。そのような種々こもごもの想いを抱きながら大学を後にした次第です。

次に、訃報ですが榊原教授を失った事は誠に無念です。ここに、惜別の情をこめて「弔辞」(抜粋)を掲載します。

「先生は昭和43年理工学部勤務され(中井先生の一年後に理化学研究所より専任講師として奉職)以来35年間電気電子材料特に固体誘電体の電気物性に関する研究に従事してこられました。(省略)また、学生の教育にも情熱を傾けてこられました。理工学部赴任されるまでは、理化学研究所の研究員でしたので往年の理化学研究所の雰囲気そのまま引き継がれたような感じで自由な発想と活力に満ちていました。一方、先生はスポーツマンでもあり、何事にも積極的に人情味あふれる人柄でした。酒タバコをこよなく愛された人でもありました。話題も豊富で科学者であると同時に文人でもありました。私も大いに刺激され、また感化されてきました。約一年間の闘病生活(胃がん)の間も熱心に講義され、研究指導に当たっておられる姿に接することができました。それはまさに感動的でさえありました。(省略)

2003.7.3」(以上)

榊原先生の人柄は研究室の学生のその後の行動にみることが出来ます。先生は逝去されても研究室の院生、学部生ともに実質的には従来の研究を継続することになりました。修論研究は2004年2月末まで続き、それから実験機材の整理をしたわけです。学生諸君は修士論文も、卒業論文も2月末で終了しているわけですが、前後一ヶ月以上にわたって懸命に実験機材の整理、廃棄処分等を手伝ってくれました。(実験機材がとてつもなく多く、いかに大変な仕事であったか榊原研OB諸君はお分かりと思う)ここに氏名を記して感謝の意を表したいと思います。伊藤勇樹君(3月修士終了)、篠田竜一郎君(M2)、小林健一君(M1)、高橋和仁君(学部卒)、道祖土直人君(学部卒)。本当に有難う。

先に同窓会誌22号が昭和60年(中央大学100周年記念号)に発刊されたことを記しました。その最後に「同窓会のあゆみ」として1号から22号までの総括記事が表にまとめてあります。同窓会運営に指導的役割を果たしてこられた名誉教授小林健一先生、吉久信幸先生にもご協力をいただきました。(表中に欠落部分がありますが、総力を挙げて調査したにもかかわらず残念ながら不明な部分でした)私はこの表のまとめを最後に、同窓会幹事を後輩に委ねました。従って以降のことは分からずに現在に至っています。しかし、思いを辿ってみると創刊号発行以来50年が経とうとしています。同窓会の歴史を将来に繋いでゆくためにも、その後の「同窓会のあゆみ」を是非とも纏めて頂きたいと願っています。

最後になりましたが、現役時代は多くの先輩後輩の方々に格別のご厚誼を頂きました。心より感謝申し上げます。私もいよいよ社会人一年生として出発しました。これからは同窓生として現役学生を応援して行きたいと思います。同窓会のますますの発展を切望して、定年退職の挨拶とします。

(2004年6月記)

修士論文発表会同窓会賞創設

平成15年度から、大学院理工学研究科電気電子情報通信工学専攻博士課程前期の修了予定者が2年間の研究成果を発表する「修士論文発表会」において、優秀論文に「同窓会賞」を贈呈することにいたしました。審査員による厳正なる審査の結果をお知らせいたします。

《 2003年度 修士論文発表会 》

日 時：平成16年2月25日（水） 午前9時～午後5時
会 場：中大理工学部校舎 6209号室、6210号室
発表者：大学院博士課程前期修了予定者 32名
審査員：天野浩志（会長）、菱沼一夫（副会長）、萩野征治（副会長）、
門原健男（常任幹事）、田口昭夫（常任幹事）

《 第1回 同窓会賞 授与式 》

日 時：平成16年3月28日（日） 午後3時15分～午後3時45分
会 場：中大理工学部校舎 1629号室
表 彰：賞状および図書券1万円
受賞者：氏名および研究発表テーマ

伊藤勇樹君：導電機構の異なる高分子フィルム表面からの光電子放出現象に関する研究

北川岳寿君：高い近似精度をもつ区分的線形回路のすべての解を求めるアルゴリズム

櫻井宏樹君：2.7V、200MS/s、14-bit CMOS D/A 変換器の SFDR 特性改善と LSI 化に関する研究

浪越洋人君：惑星探査ローバにおける自立危険回避機能に関する研究

《 審査の所感 》

以下に提示した事項は修士論文発表会の終了時に所感として述べたものであり、2003年度の修士論文発表会における同窓会賞審査の背景であったことをご理解下さい。2004年度の修士論文発表会も、この所感を基準に審査チェックリストを作成し審査する予定です。現M2の方々は十分に研究の成果を出すよう期待します。

1. 同窓会員の立場として

(1) 社会からのニーズに応えた論文か？

(2) 中大の学生がこのニーズに応じてくれているか？

※先輩として、是非自分の会社に来て欲しい人かどうか

2. 終了する人は“不十分だった”研究に心残りでしょう。

M1の人は先輩の苦勞を目の当たりにして、自分は繰り返さないようにしよう。

3. 仲間との日頃の“議論”をもっとやろう。

4. 先生を議論に巻込む努力が足りないようだ。

5. 論文テーマは一生こだわりとして持っていて欲しい。

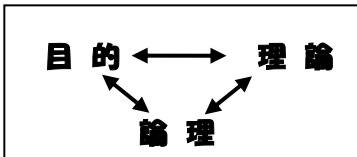
(論文と異なった分野の仕事に就く人はなお更だ。好むと好まらずに関わらずあなたの青春をかけ

た筈、これを人生の基点にせず、何を基点にできるのか?)

6. 既存の「学説」を疑い、否定する勇氣。(確認の技術は日々高度化、進歩している)

7. 科学と技術の相違をしっかりと理解しよう。

8. 下図の関係をしっかりと設定すると共に常日頃ウォッチしよう。



「同窓会賞」を受賞した左から、浪越洋人君、北川岳寿君、伊藤勇樹君、(櫻井宏樹君は欠席)



修士論文発表会同窓会賞を受賞して

電気電子情報通信工学専攻 博士後期課程 1年 櫻井 宏 樹

このたびは同窓会賞を頂き、大変光栄に思います。学部4年生から3年間、理論だけではなく実際の「物」を作り上げたいと思い、研究を進めてきました。回路シミュレーション時には想定していなかった問題が多く苦労しましたが、今回OBの方々に評価していただいたことは、今後研究活動を続ける上で大きな自信になると思います。簡単にではありますが私の修士論文の概略を紹介させていただきたいと思います。

高速・高精度 D/A 変換器は映像、通信等様々な分野で用いられています。これらの機器ではナイキスト周波数(サンプリング周波数の 1/2) 近傍まで高品質な信号を生成することが望まれています。実際には生成信号周波数が高くなると高調波歪が生じ、信号が劣化してしまいます。この原因として、従来から検討されている直流動作時の非直線性誤差に加え、出力信号における過渡的な動作が特性を劣化させていることが明らかになってきています。これまでの検討によっていくつかの過渡的な歪の原因を改善してきましたが、未だ十分な特性は得られていません。そこで本研究では、この特性を劣化させる過渡的な要因として出力信号変化時の時定数の変動について検討を行い、改善を施しました。

本研究では、上位 6 ビットに高精度変換可能なセルマトリクス型 DAC を、下位 8 ビットにチップ面積の増大を防ぐために R-2R 型 DAC を用いて 14 ビット D/A 変換器を構成しています。上位 6 ビットのデジタル信号は温度計符号

に変換された後、セレクタ回路、ラッチ回路を通して、各スイッチに入力されます。

下位 8 ビットは上

位ビットと遅延を整合させた後、ラッチを通して各スイッチに入力されます。この D/A 変換器の単調性を保証するために各電流源に必要なビット精度は 9 ビットとなります。一般的なカレントミラー回路では素子ばらつきの影響により高い精度を実現することは難しいため、カレントミラー回路のソース側に線形動作トランジスタを挿入した回路構成を用いています。SPICE モンテカルロ解析を用いてシミュレーションした結果、設計した電流源でおおよそ 9 ビット精度を確保していることが確認できました。また、本回路は電源配線の寄生抵抗による電流値の偏りの影響を低減するため、電流源の配置にも工夫を施しています。

D/A 変換器の周波数特性を評価するために SFDR を用います。SFDR とは、D/A 変換器の出力スペクトラムにおける基本波レベルと最大高調波レベルとの差を表し、D/A 変換の精度を示す指標の 1 つとなっています。14 ビット分解能 D/A 変換器において、14 ビット精度を保

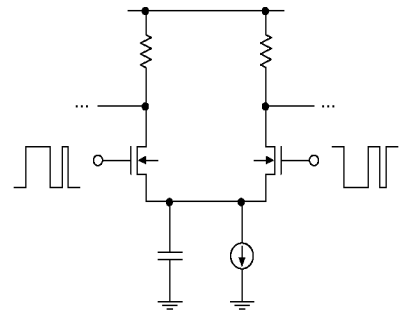


図1 電流セル

証するためには約 86dBc の SFDR が必要となります。従来の D/A 変換器では、高周波領域において 14 ビット精度に必要な SFDR が得られておらず、また生成信号周波数が高くなるに従って SFDR がさらに劣化してしまいます。この原因として、D/A 変換器の出力信号における時定数の変化があります。D/A 変換器の出力は、クロックサイクル毎に入力デジタル信号によって出力値が変化します。この変化の 10% ~ 90% までの立ち上がり時間を観察すると、出力電流が大きくなるに従って立ち上がり時間が長くなっていることが分かります。また、立下り時間を測定しても同様の結果が得られます。

この時定数変動のメカニズムは次の通りです。上位 6 ビットのセルマトリクス型 D/A 変換器は、電流源と差動スイッチからなる電流セルが、出力抵抗に並列に接続されている構成となっています (図 1)。電流セルに 1 が入力されると正相側のスイッチが ON に、反転相側のスイッチが OFF となり、正相側の出力抵抗に電流が流れます。0 が入力された場合は、スイッチの ON/OFF は逆となり、反転相側の出力抵抗に電流が流れます。スイッチが ON 状態のとき、このスイッチトランジスタは電流源に対してカスコードトランジスタとして動作しているため、出力端子側から見た抵抗値は十分大きな値となります (数十メガΩ)。このため、直流的な誤差は十分小さくなります。生成信号が高周波の場合、差動スイッチの共通ソース端子に寄生する容量の影響が問題となります。この端子にはスイッチトランジスタ 2 個分のソース端子容量と電流源のドレイン端子容量が寄生しています。電流源は電流値のばらつきを低減するために比較的大きなサイズを用いているため、寄生容量も大きくなっています。

スイッチトランジスタの出力インピーダンスは有限であるため、出力端子の変化は ON しているスイッチトランジスタを通して共通ソ

ース端子に伝わります。共通ソース端子の電圧変動はおおよそ (出力端子の電圧変動) / (スイッチトランジスタの固有利得) となります。0.35 μm CMOS プロセスの場合、トランジスタの固有利得は数十倍程度となります。この共通ソース端子の電圧変動により寄生容量に過渡電流が発生し、ON しているスイッチトランジスタを通して出力抵抗に流れ出てしまいます。出力抵抗に流れる過渡電流の総量は ON しているスイッチトランジスタの数に比例します。このため、出力電流が大きいほど出力変化時の時定数が大きくなります。さらに、生成信号周波数がナイキスト周波数に近づくと 1 クロックサイクルでの出力電圧変化が大きくなります。これによりスイッチの共通ソース端子で発生する過渡電流が大きくなり、信号劣化につながります。

時定数変動を抑えるための手法として、本研究ではスイッチのドレイン端子の電圧変動を抑える構成を提案しました。スイッチのドレイン端子と D/A 変換器の出力端子の間にバッファトランジスタを挿入し、このトランジスタのソース端子の電圧変動を反転増幅してゲート端子に帰還します

(図 2)。スイッチトランジスタが ON すると、バッファトランジスタのソース端子に電化が蓄積され、電位が下がります。すると反転増幅器によってゲート端子の電圧は上昇し、

負帰還がかかることでバッファトランジスタのソース端子、つまりスイッチトランジスタのドレイン端子の電圧変動を抑えることができます。バッファトランジスタには、カットオフ

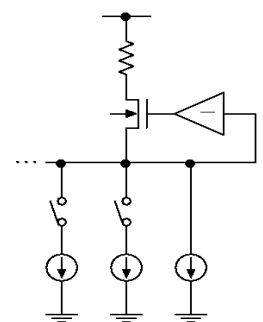


図 2 バッファ Tr

するのを防ぐために一定のバイアス電流を流しています。

実際の回路構成としては上位6ビット分(63個)の電流セル+ダミーセルを8個ずつ8分割してそれぞれバッファトランジスタのソース端子に接続しています。これは遅延を抑え、また実装を容易にするためです。バッファトランジスタを1つとした場合、このトランジスタには数 mA 単位の電流が流れるため、ゲート幅を大きくする必要があります。しかし、ゲート面積の増大と共にゲート容量が大きくなり、負帰還時の遅延が大きくなってしまいます。これにより、出力電圧変化時にダンピングが発生してしまいます。よってバッファトランジスタを分割し、遅延を小さくすることでダンピングを抑えています。また、上位6ビットの電流セルは 8×8 の配列で配置されています。これにより1行(または列)に1つのバッファトランジ

スタを用いることで配置、配線等を簡単化しています。

従来のスイッチトランジスタを出力端子に直接接続した構成の場合、出力端子における時定数の変化はおおよそ 0.3nsec でしたが、バッファトランジスタを挿入することで、この変化を 0.02nsec 程度に抑えることができました。SPICE シミュレーションによる高速フーリエ変換を行うと、従来回路と比較して SFDR は約 10dB 改善することができました。この回路はテストサンプルを試作し、評価を行っています。

これから数年間、このテーマをさらに掘り下げていくことになりましたが、この賞を励みにがんばっていきたいと思います。最後になりましたが、研究を進めるにあたり多大なるご指導、ご鞭撻を賜りました杉本泰博教授に深く感謝いたします。

科学と技術の一考察

39年卒 菱沼一夫

(ノーベル賞の審査方法が変わってきたのかもしれないが) 田中 耕一さんがノーベル賞を受賞した際の国内の反応振りにもその一端が露呈して困惑情報が闊歩した。

筆者の「科学」と「技術」の定義を参考に以下に示す。

◆科学：

*原理・原則に基づき現象の発生メカニズムを解析すること (自然現象の神秘の解明)
[経済性、実現性を問う必要はない]
【自然科学】、【社会科学】

◆技術：

- ①科学を活用して人の生活に直接的な影響を及ぼす“物”の生産手段や論理展開
- ②現象の解明はさて置き、人の利便性を具現化する手段
- ③理論はさて置き、経済性を実践する手段

商品を手にするときには買い手としての期待がある。メーカーは提供した商品が多くの買い手の要求を満足するように仕様設定(品質設定)と品質管理を行う。

社会に商品を提供し、それがユーザーに受け入れられなければ売れない。企業にとっては大変だが、社会から見たら売れないのは「ご苦労さん」で済まされる。しかし、商品が人々の安全や健康を犯したりすると只事では済まない。これが「クレーム」であり、ユーザーの信頼を裏切ったことになり社会問題となる。企業にとって商品は売れなければならないので、「手練手管」を使って商品を開発し、製造し、販売する。

この「手練手管」が“技術”である。

見栄えをよくするのに危険物質を使ったり、コストを優先する余り処理の時間を短縮したり、強度設計の余裕を小さくしたりして問題を起こす。

商品にクレームが発生するのは適用した「手練手管」(“技術”)の合理性に問題があるからである。

何故このようなこと多発するのか？

科学の適用を蔑ろにしているからである。

科学は自然現象を人々に理解できるようにすることである。善悪を判定する道具ではない。

人々は科学情報を生活に都合が良くなるように「制御」に使わなければならないのだが。

科学情報には人々の思惑に対して両面を示唆している。最近の企業活動では科学情報の都合の良い面を表に出し、科学情報が提示している都合悪い面を“無視”して使われることが多い。

「日本の科学/技術の水準・・・」のような議論が巷でなされている。

哲学的に考えると「科学」と「技術」の領域はかなり違うのに安易に議論が一緒くたにされている。当事者と自負してほしい大学の研究者、企業の先端研究者や技術者も「科学」と「技術」の認識が曖昧なようだ。

20世紀の偉大な科学者アインシュタインは質量とエネルギーの関係を提起した。これは科学である。

権力者はこれを戦争の道具に発展させ戦争に勝つための「技術」を駆使した。科学と技術の融合の最悪のケースである。

アメリカのノーベル賞科学者ファイマン(素粒子の分解モデルの発案)は広島、長崎の原爆の加害規模をシミュレーションした。(科学者としてやったか国家事業に参画したかは分からない) 高校卒の技能者を数十人雇い、タイガー計算機(機械式の加減算機)を使って2乗、3乗、n乗の計算をカンバン方式やったと彼の回顧録に記している。IBMの電子計算機の開発はこの過程で生まれたようだ。シミュレーションの基本データを採取するためにウランから出る放射能を測定する必要があり、放射能の危険は承知していたにもかかわらず被爆していた。スペースシャトルの燃料タンク爆発事故の調査委員長を務めた数年後、キューリー夫人と同様に白血病で亡くなっている。

科学が未発達だった(世の中に認知されていなかった)

ケプラーやガリレオの時代、自然現象を解明した科学的知見は権力者にとって“予言”の一般化であり、最も恐れたものであった。

マイクロエレクトロニクスは科学と技術の世界が表裏一体となって爆発的進展を遂げているが科学と技術が融合した産業界かどうかを見てみたい。

2004年2月に同窓会と大学のゼミとの連携の一環として、電気電子情報通信工学科の修士論文に第1回の「同窓会賞」を設定することになって、授賞審査に参加させて戴きその時にも、学生は本当に「学究」をしているかの視点で各発表を聞かせていただいた。

この時の所感を表に示す。

この小論文が学究に身を置く学生さんや若き卒業生の発奮の一助になれば幸いである。

[菱沼技術士事務所・代表；経営工学コンサルタント]

菱沼技術士事務所 E-mail: RXP10620@nifty.ne.jp

URL: <http://www.e-hishi.com>

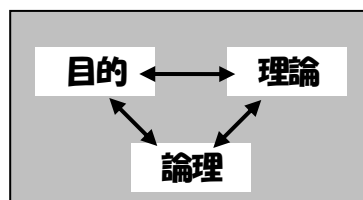
〒212-0054 川崎市幸区小倉 1232 Tel. 044-588-7533,

Fax 044-599-8085

2004年2月

電気電子情報通信工学科の修士論文聴講所感

1. 同窓会員の立場として
 - (1) 社会からのニーズ応えた論文か？
 - (2) 同窓生の出身校の学生がこのニーズに応えてくれているか？※先輩として、是非自分の会社に来て欲しい人かどうか
2. 卒業する人は“不十分だった”研究に心残りでしょう。
M1の人は先輩の苦労を目の当たりにして、自分は繰り返さないようにしよう。
3. 仲間との日頃の“激論”をもっとやろう。
4. 先生を議論に巻き込む努力が足りないようだ。
5. 論文テーマを一生のこだわりとして持っていて欲しい
(論文と異なった分野の仕事に付く人はなお更だ。好むと好まざるに関わらずあなたの青春を掛けた筈。これを人生の基点にせず、何を基点にできるのか?)
6. 既存の「学説」を疑い、否定する勇氣。
(確認技術は日々高度化、進歩している)
7. 科学と技術の相違をしっかりと理解しよう
8. 下図の関係をしっかりと設定すると共に常日頃ウォッチしよう。





着任のご挨拶

教授 羽鳥光俊

この四月に着任させていただきました羽鳥です。思いがけなく中央大学に勤めさせていただくことになり、心も新たに勤めさせていただきたく存じております。非常勤講師を務めさせていただきましたが、正規の教授として勤めさせていただくことになり、感慨も新たに致しております。

小生の専門は通信工学と放送工学です。通信と放送の進歩には目を見張るものがあります。更には、コンピュータの進歩にも目を見張るものがあります。コンピュータと通信、放送が結合して一つになろうとしてしております。更に、情報家電が結合します。

コンピュータとインターネット、デジタル放送、情報家電の結合です。例えば、デジタル放送のデータ放送で知ったことを、インターネットで更に詳しく調べられるという、便利な仕組みが手に入りつつあります。これを可能にするのがコンピュータと情報家電です。

但し、順風万帆かというところでは有りません。インターネットは電話ネットワークほど安定では、残念ながら有りません。電話ネットワークからインターネットへの世代交代が進みつつあります。

電話もインターネットの上で動く VOIP (Voiceover IP) です。しかし、インターネットが動かないと VOIP 電話も止まってしまう。困ります。だけど、携帯電話があると言う人もいます。そうかも知れませんが、そうでしょうか。長年かかって作ってきた電話ネットワーク、交換機の高信頼性を生かすインターネットにしたいものです。

PC も大変便利ですが、期待程安定では有りません。フリーズするのは何故か知りたいところです。ウィンドーズがフリーズすることが許されるのは、再立ち上げすると、何故か動くからでしょう。OS のホールのためだと言われます。バグの無いソフトを作ることは至難とは言え、マイクロソフトにも工夫、協力してもらい、衆知を集めてバグを洗い出したいものです。

それと、あまり書きたくないことですが、中央大学の電気電子情報通信工学科の LAN の管理が大きいボトルネックです。サーバーを作り、学科の fumi サーバーの下の LAN でサーバーを動かすのに、着任してから4ヶ月以上かかってしまいました。動いてみれば、「何だそんな事だったのか」というような事でしたが、それを突き止めるために、4ヶ月半かかってしまいました。大勢のネットワーク管理者の方々のお世話になってやっと原因がわかったのです。お一人の方にご相談すれば解決するような、ワンストップ・ポータルな管理組織としたいものです。

放送のデジタル化は、情報家電、インターネットに深く関連いたします。情報家電の好況が、日本経済を牽引して欲しい、そのお手伝いとして、家庭内の情報インフラのシームレスな接続の研究開発の御手伝いをしたく存じております。

携帯電話は、極めて魅力ある通信手段を提供しております。電話だけでなく、i-モード等のパケットインターネット、更には、画像通信サービスがあげられます。

IEEE. 809. 11 b の無線ランも重要です。

3GPP, 3GPP2, 3G and Beyond, 4G などのハーモナイゼーション、研究開発も進められているところです。

YRP (横須賀リサーチパーク) の御手伝いをしております。YRP は移動通信、放送、インターネットの研究を行うリサーチパークです。データベース振興センター (DPC) のお手伝い、情報通信技術委員会 (TTC) のお手伝い、総務省の独立行政法

人評価委員会や公募研究、試験事務、放送政策、CATV、経産省のテレビとVTRのトップランナー委員会などのお手伝いしています。

諸先輩のご指導ご教示をお願い申し上げます。学部、大学院の講義と、研究室の学生の指導に参考にさせていただきぞんじます。有難うございます。

会誌発行事業費の集計報告 (その3)

会誌40号発行以降に皆様から寄せられました「会誌発行事業費」について、集計結果とご協力頂きました方々のご芳名ならびに会誌39号・40号に掲載が漏れていた方々のご芳名を併せて報告いたします。

● 会誌発行事業費・既卒者終身会費集計報告

収入金額合計：1,903,100円 (振込手数料15,900円差引後)

● 会誌発行事業費納付者御芳名

吉久信久 殿	深井 昌 殿	永井俊一 殿	荒木瑞穂 殿	金子和夫 殿	月俣憲昭 殿
今村雅明 殿	斎藤克典 殿	関口英昭 殿	畑中 勤 殿	馬渡 修 殿	鈴木 徹 殿
佐野博章 殿	小川輝幸 殿	尾曾貴之 殿	海上 大 殿	蔵元勝浩 殿	鈴木信好 殿

● 会誌発行事業費・終身会費の納付先口座のご案内

引続き、昭和年代に学部を卒業された方は「会誌発行事業費」を、平成年代に学部を卒業された方は「終身会費」の受付を行っておりますので、同窓で未納あるいは未入会の方がおられましたらご協力お願いの声をかけて頂き、下記口座をご紹介下さるようお願いいたします。

また、既に一度「会誌発行事業費」をご納付された方も再度のご協力を頂ければ幸いです。

【 銀行振込の場合 】

銀行名：東京三菱銀行
支店名：春日町支店
店番：062
口座番号：0286586
口座名：中大電気同窓会

【 郵便振替の場合 】

口座番号：00130-7-752276
加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

郵便振替で御納付される方は、住所・氏名・学部卒業年を必ず御記入下さい。



着任のご挨拶

専任講師 庄司一郎

本年4月より電気電子情報通信工学科に着任いたしました。歴史ある本学科の一員となれましたことを光栄に存じますとともに、今後は自分の研究・教育活動が歴史の一部になっていくことを考えますと、身の引き締る思いです。

私は1969年生まれで、高校まで北海道室蘭市で過ごしました。その後、東京大学に入学し、工学部物理工学科の伊藤良一先生（現東大名誉教授）のもとで非線形光学の研究を行いました。非線形光学効果はレーザー光のような強度の大きい光が物質に入射すると生じる現象で、これをうまく利用すると入射レーザー光の波長を別の波長へ変換することができます。レーザーは現在、半導体レーザーのような超小型のものはCDやDVDプレーヤー、レーザーポインタ、レーザープリンタなどの世の中に広く普及しています。中型や大型のレーザーも研究用はもちろんのこと、溶接などの加工や医療における目の治療、環境計測など、さまざまな用途で利用されています。しかし、従来のレーザーは発振波長が限られているうえ、効率を始めとする性能面でも改善の余地が多く残されています。非線形光学効果による波長変換をキーワードとして、これまでにない高性能レーザーを開発すべく、日々研究に邁進していきたいと考えております。

中央大学に赴任する前の5年間は、愛知県岡崎市にあります分子科学研究所でレーザー材料に関する研究をしておりました。地方は地方ならではの良さがあり、こちらに移ってきまして、新3号館から東京ドームを見下ろしますと、中央大学理工学部がまさに都心にあることを実感します。他の

先生や事務の人たちともたびたび話題になります。このロケーションの良さを活かさない手は無く、また、もっともっとアピールしていくべきだと思います。

私自身は学生時代の研究室の先輩が東大工学部のマテリアル工学科におり、本郷キャンパスが徒歩15分程度と至近であることを利用して、早速共同研究をスタートさせ、週に1、2回程度出向いています。両研究室合同のゼミも行っており、私の研究室の学生にとっても他大学の学生との交流は大変良い刺激になっているようです。秋葉原に近く、ちょっとした電子部品が必要になればすぐに調達できるというのも実験屋にとっては大きなメリットです。

学生の皆さんにもこのような好条件をうまく活用して、中大理工ならではの学生生活を送っていただきたいと思っています。そういった意味で、現在入学者の割合として首都圏出身者が多いようですが、地方出身の学生にもっと数多く来てもらい、都心のど真ん中に飛び込んで貴重な経験を積んでもらうと同時に、多様なバックグラウンドを持った学生と一緒に学びあうことにより、学科全体がますます活性化されればと思います。

そのためにはやはり「都心に中大理工あり」をいかに全国に行き渡らせるかが重要です。教員としてまずやらなければならないことは、研究・教育を通じてその名を知らしめることであり、微力を尽くしてこれから頑張っていきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

高原の風

昭和33年卒 市川友之

春4月、まだ、雪あり、下界では花が咲き、露のトウをおいしく食する頃、山は、残雪である。南に40 Km、甲斐駒ヶ岳がまぶしく悠然とピラミッド型に輝いて見える。山々に残雪の映るこの時期が一年で最も好きな季節である。冬の活動の区切であり、山に春夏を呼ぶ二番目の希望のもてる季節だからである。やがて、土の匂いがたまたま花の植え時となる。今年に限って、遅霜があり、5月初旬にパンジー、ビオラといった種類を植えたが、22日、霜のため、半分は凍り枯れ絶えた。霜と云っても、柱の長さが10~20 cmだから氷林に死すである。

秋から冬にかけての霜はこんなモノではない。真冬の気温は-2~-18度である。雪がしんしんと降り積もる新潟とは異なって、風が無い狂うのである。スキーに出かけようなどととても思えない時である。両隣はロッジ経営で、フルシーズン人が来る。その一つは、1,200坪の庭を持つ。オーナーが一人で夏中、花の植付け、手入れを続ける。私は、自分の事より他人の行動が気になってしまうタチである。手伝えることにした。朝は6時頃より夕は6~7時。午前午後の休憩時には星のマークをいただき、自然の真中に長靴、ゴム手袋、色メガネ、鍬、スコップ、水ホースである。69歳を超えてようやく「自分が見えて来た」ように考えております。日の出は4時46分、日の入り19時02分。秋は早く、冬は厳しい季節となります。

この冬、お隣にどうしても頼まれて、29ファミリーのスキーコーチをした。中心は幼児、小学生の子供である。リフト上で話すことがさまざま、学校幼稚園のこと、友達、家族のこと、将来の夢のことなどであるが、家庭の環境、お育ちが良くわかります。一家のみなさんが一つの場所で休憩した時のこと、ご一家の両親、学生、生徒、園児とそれぞれに思いやって会話する様子など、ほほえむ場面があった。遠く和歌山から来られたご一家です。一年に一度の楽しみで、来年は上が大学受験だから、こられないかな、と言っ

ておられた。かつて、大学という中でも思いましたが、目的意識や夢に純粹であることは、たのもしく感じるものである。

先生(市川)に会いたい、もう一度滑りたいと言って、2度来られた園児がいた。年を重ねてはいけない、言葉と表現を楽しめるよう工夫し、山の喜びを生かし、限らない創造性でも与えられたらと山々を見ているところです。

さて、ここは八ヶ岳中信高原国定公園であることから、建物の構造、土地の利用方等にさまざまな制限があります。花々を植えるのも自由ではないのです。そこに、ミニSLを走らせようと、いま計画中です。計画通りにゆくか思案中であるが楽しみである。週に1~2度は、買い物その他で街に下ります(往復約70 Km)。月に一度は東京に「あずさ号」を利用します。季節の野菜が豊富で、価格が驚くほど安いのが良い。魚は新潟から来る。これまた東京から見て安いのである。山に住んだら、静かに仙人にでもと考えて来ましたが、お隣の影響も大きく、常に動かされています。体は健康で自由に活動できる状態にはないのですが、動かされているのです。

この冬は東京の友人の誘いによりヌプリ、八幡平の深雪にもぐってきました。転ぶと深く雪の中、天地がわからなくなります。その瞬間がたまらない雪中遊泳である。程ほどをわきまえないので、以来、体調が悪く、ゴルフや走るといった科学的運動から遠退いてしまいました。

他方、あの中央大学での44年間の生活はなかなか忘れがたく、学生は元気か、らしきがあるか、目的意識はしっかりしているか等余計なことをいつも思っているのです。日々有意義で豊さがあり、たのもしき生活を送っているわけではありませんが、「高原」は天に近く、水清く、風は見えるのです。

皆さんの健康を心から心をこめてお祈りし、ご活躍を真に期待します。

平成14年度会計報告

(自平成14年4月1日～至平成15年3月31日)

収入の部

前年度よりの繰越金	2,358,021円
平成14年度総会会費	280,000円
預貯金利息	66円
名簿売上代金	0円
終身会費	330,000円
寄付金	3,800円
会誌発行事業費寄付	75,000円

計 3,106,887円

支出の部

平成14年度総会費	245,198円
通信及び印刷費	424,430円
アルバイト代	0円
事務・運営費	24,819円
名簿関係	
印刷費	0円
通信費	0円
アルバイト代	0円
事務費	30,000円
慶弔費	0円
次年度繰越金	2,382,440円

計 3,106,887円

上記、平成14年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成15年6月17日

築山修治 印

平成15年度会計報告

(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)
(本会計報告は、本年度開催の総会で承認を諮る予定)

収入の部

前年度よりの繰越金	2,382,440円
平成15年度総会会費	240,000円
預貯金利息	13円
名簿売上代金	0円
終身会費	360,000円
寄付金	40,775円
会誌発行事業費寄付	66,000円

計 3,089,208円

支出の部

平成14年度総会費	130,220円
通信及び印刷費	452,752円
アルバイト代	0円
事務・運営費	17,198円
名簿関係	
印刷費	0円
通信費	0円
アルバイト代	0円
事務費	30,000円
慶弔費	10,000円
中央大学125周年記念事業費	400,000円
次年度繰越金	2,048,513円

計 3,089,208円

上記、平成15年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。
平成16年7月6日

築山修治 印

昭和38年卒同期会

昭和38年卒 小島 豊

昭和38年(1963年)卒は、四回目の同期会を去る6月5日 吉久先生、遠藤先生にご来席賜り、理工学部5号館パーティールームで催しました。27名が集い、遠くは大阪や富山からの参加者に加え4名の初参加者がありました。旧交を温め近況を語り合って盛り上がったひとときを過ごせました。写真はこのとき集った仲間たちです。

初回同期会は2001年2月11日に中央大学駿河台記念会館で開催、吉久先生、市川先生をお招きでき29名の参加者共々再会の感動にふけりました。このとき同期会をCHUO38e会[38e(い)会]と名付けました。以来毎年一回6月第1土曜日に開催することにしています。

二回目は2002年6月1日に同じく中央大学駿河台記念会館で吉久先生、遠藤先生を囲んで21名(初参加 4名)のメンバーが集まりました。遠藤先生からは来年3月には理工学部旧3号館に替わって14階建ての堂々とした新3号館校舎が誕生することなど大学の近況をお話し頂き、皆が感慨にふけたひとときでした。38卒にとっては4年次に学部名が工学部から理工学部へ発展改称されると共にバラック建てとも云えそうな水道橋校舎から新築の後楽園校舎へ移動して最初の卒業の栄?を担うこととなり、ひとしお思い出深い後楽園校舎です。

三回目は2003年6月7日にその後楽園校舎の新棟3号館14階に場所を得て眼下に東京ドームを見下ろしながら、吉久先生、遠藤先生と共に30名(初参加 6名)が集い歓談の時を持つことが出来ました。吉久先生から貝原益軒先生の健康維持法の講義を頂き、遠藤先

生には新設間もない高電圧実験室を見学させて頂きました。また校舎群の威容を誇る様変わりに驚かされました。

同期生は60歳定年制の下で2002年に全員が節目の年を迎えた次第です。まだ多くの者は現役として活躍しておりますが、ボランティア活動に生き甲斐を見つけた者、既に隠居に入り身勝手に自由を謳歌する者等々それぞれの日々を送っているようです。

同期会に限らずゴルフ会などもその立ち上げと維持継続には発起人とか世話人の存在が不可欠です。38卒にも大西という物好きがいてこの同期会が誕生しました。彼は定年後、ボケ防止のために同期生の現住所調べを始めたわけです。卒業当時の名簿からNTT(104)で調べた勤務先人事担当部門への問い合わせ、104嬢らの友好的な情報提供を受けながら仲間の輪が広がりほぼ半年で90数名中70名程度の住所録をまとめ上げたのです。

さらに彼はこの住所録を基に同期会設立を思い立ち、呼びかけに集まった11名を仲間に2000年12月10日東京八重洲地下街のレストランで準備会が設立されました。

このとき準備資金が参会者から拠出され、担当も決まって同期会が活動を開始しました。

38e会の歴史を立ち上げた諸君の名を記してその労に感謝したいと思います。

(50音順) 五本 武、大西 雅和、小野信、小野口 昇一、笠木 一孝、武井 正、常田 眞紀、中村 昭英、中村 嘉男、福内 正和、松本 史、柳沢 安信 以上

その後現在は事務局として9名の幹事を擁し、会場担当の武井君をはじめ役割を分担しながら専らインターネット・メールで連絡を取る

方法を活用して運営を図っています。

東京からの遠隔地に在所中の仲間の便を図るためにホームページを開設しています。ホームページのURLは

<http://www.s-and-u.jp/e38-chuo-u/>です。

同期会の様子をここで確認して下さい。

同期会には付設の（e38ゴルフ会 担当林）があります。ときには遠出もしますのでゴルフ愛好者はメンバー登録しておいて下さい。案内を配信します。

同期会会員92名中74名が所在判明、11

名が音信不通です。今後所在が確認出来ることを期待しています。最後にはやばやと物故された7名の仲間に対し哀悼の意を表し、恩師の方々ならびに残る仲間たちの御健康とご多幸を祈ります。

追伸：

次同期会は 2005年（平成17年）6月4日（土）を予定しています。詳細は別途案内しますが日程の確保は忘れないようメモして下さい。



昭和38年卒 第4回同期会記念写真

「トドの詰まり文化論」・その8 EUの拡大は何をもたらすのか？

十字軍／オスマントルコ時代の再現か？／無宗教、無国籍化の日本はどうする

昭和39年卒 菱沼 一夫

西ヨーロッパの主要都市を訪れた方は包装商品に「e 100g」や「e 350ml」の表示に気付いていると思うが、欧州共同体が発足して、欧州各国の規則の相違による包装商品の量目規制の域内の物流障害を排除するために設けられた統一規則の認証マークである。

このマークの付された商品は自由に取引できる包装商品の“パスポート”になっている。

国際間の計量関係の横断的ルールを策定しているのがOIML（国際法定計量機関：本部フランス）である。OIMLが新たに包装商品量目の国際間の普及を図るべく活動を開始した。日本にはまだ同類の規則はない。昨年の11月に日本が議長国でOIMLの総会が京都で開催され包装商品量目の世界的な共通化推進が決議された。本年の3月通商産業省の諮問調査団が結成されEUのeマークの実態調査が行われ筆者も参加して、スウェーデン、オランダを視察した。

計量行政を通してEUのシステムを垣間見ることができた。

最初に訪問したスウェーデンは福祉が充実していることで日本では有名である。

計量行政や市場の実際の話をしているうちにどうも話しが噛み合わない。規則のことになると法律の専門家が出てきて話し、技術的なことになると別人が現れ、行政のことになると又別の担当者が出てくる。3つの専門家がワンセットである。それに話に冗長性がない。

それにEU全体の話しになると避けたがる。スウェーデンの国勢を調べてみた。人口90

0万人。王制を敷く社会主義国家である。国土は411千km²であり日本と同等の広さ。しかし実際の居住には適さない国土が大半である。VOLVO, SAABの生産国でもあるから、工業国でもある。歴史的には周辺国の侵略を経験している。



【eマーク写真】

所得税60%、消費税25%が主要税制である。

すなわち10,000円のお金を稼ぐと6,000円が所得税として引かれ、残りのお金で物を買うと1,000円が消費税となる。すなわち可処分金額は3,000円と言うことになる。しかし、教育費用、病院費用は全額国費で行われている。日本の健康保険に相当するものは個人単位だそうである。一見税金大国と思われるが、教育費、医療費が国家によって保証されていることは、日本の家計を精査してみ

るとまんざらでもでもないようだ。年金負担金の納入をごまかして栄耀栄華に耽って老後の見の振り方に文句を付けている日本人は参考にしたらいものだ。日本の税制も中堅のサラリーマンは所得税、市民税／県民税を合わせると所得税の2倍になり、健康保険、失業保険、年金の掛け金等を含めると40%を越す、それに教育費、住居費を入れたら一体可処分金額は幾らになっているだろうか？ 1歩踏み込んで見ると、1億の人口で構成されている日本の国政が当たり前になっている我々の感覚から見ると、何と900万人そこそこの人口で国家を形成していることに驚きを感じる。

オランダは1600万人、国土は日本の1/10であるが国際的な活動は日本を凌ぐものもある。イラク派遣の自衛隊はオランダ軍の保護下にある。

彼らの国勢の実態を知るうちになんとなく理解はできたものの従来の世界観に疑問が出てきた。

人口と国家、少人数国家のEU連合が何を指しているのか？ これを「トドの詰まり文化論」その8の課題とした。

EUは本年の4月第5次の加盟国を加えて25カ国となり4.5億人の経済(?)同盟国になった。

今日までの加盟順序と当該国の国勢を次頁からの表に示した。

EUの結成は、第2次世界大戦の終戦後の1946年にW.チャーチルがヨーロッパ合衆国構想を提唱したことに遡る。1951年に西ドイツ、ベルギー、フランス、イタリア、ルクセンブルグ、オランダの6カ国がECSC設立条約(パリ)に調印。実質は1952年に動き出している。1967年に単一閣僚理事会、単一委員会(EC委員会)が発足。

1973年英国、アイルランド、デンマークが

加盟、ECは9カ国になる。1974年共同体の社会プログラムを採択。1975年ECと中国が外交関係を樹立。1979年 欧州通貨制度(EMS)発足。

1980年EC、ASEANとの協力協定を締結。

1984年ECと中国、通商・経済協力協定に調印。

1990年東西ドイツ統一、東ドイツ州もECに加入。

1992年フランスは国民投票51.05%の賛成でEU条約を可決。デンマークは50.7%で否決(後の1993年の再投票の結果56.6%で可決)。1993年スイスが離脱。1993年EU(The European Union)が発足。1996年バンコクにてアジア欧州首脳会議が開催。2000年カイロにてアフリカ・欧州首脳会議開催。1995年のEMSが発足して7年を経て、“ユーロ”がEUの共通通貨として流通開始。

以上はEUの資料からEUの設立の経過を掻い摘んでみた。W.チャーチルの提唱から50年の長大な年月を経て今日のEUができあがっている。

確実に経済連合(?)が確立している。

現在、EUに加盟している欧州各国の政治体制は独立したものになっているが、工業／経済の面では長期間をかけて作られたかなりタイトな共通ルールが確立されてきていて、そのルールは一朝一夕では容易に変更しにくいものになっている。

EUは連合体であるから各国の政治には直接関与はしないから世界レベルの決議には各国に“1票”がある。ここが曲者である。

900万人のスウェーデンも1票、1600万人のオランダも1票、40万人そこそこのルクセンブルグやマルタも1票。12億人の中国も1票である。

どこかの国では人口と議員の定数の格差で1票の重さの比較を裁判で議論している。国際間の格差はどうするのか？

世界の国ごとの人口の相違と国際的な議論の場での議決権の相違が気にするのは日本（私）だけなのだろうか。

経済力と武力で世界を制圧している国があるから少数団結は仕方のない帰結になるのか。

私もそうだが、日本人は1.2億人の人口で構成されている国家と国家運営を当たり前と感じている。

増してや日本は島国で他国との直接的な交流のない“トドの詰まり”文化の国である。アメリカのある経済学者が日本を例にして、人口5000万人から1億人に成長した国の国家の経済繁栄のモデル研究している。そのキーは①内需の市場規模、②潤沢な労働力の供給、③余剰生産力による貿易産業の発展

1億人の国家では一人一人の役割期待の自由度は広がる。職業選択の自由が先ず確保されよう。同時に一人一人の存在価値は薄らぎ、“掛け替え性”も大きくなろう。1.2億の人口の国の人間が900万人の人口で国家機能の達成を考えると気の遠くなるような戸惑いがやってくる。人手が桁違いに少ないので一人一人が引く手数多と考えがちである。スウェーデンでは、転職は非常に難しいそうである。あらゆる分野で国民一人一人の役割期待が明確になっているので、一つの仕事と個人が一体になっていて自由な行動を規制することになっているのかもしれない。

教育費用は国費によって全額賄われているとすれば、教育は国民一人一人が国家のための職業訓練体制になっていると“誤解”しても良いかも知れない。法律を専攻した人間がキーになっているようだ。彼らとのミーティングが保守的で“イラ付く”ことが多かったのもこんな論理構成だからなのかもしれない。オラ

ンダにしても1600万人である。EU加盟国の国単位の人口を見ると最も多いのがドイツで8200万人、5～6000万人クラスが英国、フランス、イタリア、それにスペイン、ポーランドが大目の国である。ルクセンブルグ、マルタに至っては約40万人の国家であり、日本の中小市レベルである。

小国が国際社会で発言力を保つには、大同団結が必須である。EUの設立はヨーロッパの国々にとっては必然的な志向であると理解しなければならないのかもしれない。

今、世界の世論を二分しているイラク進攻（侵攻）（小生はフセイン独裁体制の終焉が目的で良いと思っているが）にフランス、ドイツが全面反対する論拠も過っての植民地の国であったり、フランスの工業経済がアラブ諸国の移民によって成り立っていること、現フランス大統領のシラクが至近の選挙で勝ったのもアラブ系選挙民の支援によるところが大きいが、アメリカの一強支配を好まぬEU結成の趣旨の一端と解釈したほうが理解しやすいようだ。

東ヨーロッパの旧ソ連邦の国々も着実にEUに組み込まれてきている。イデオロギーでの国家運営はほぼ崩壊した。宗教と民族意識の掌握が国家の統率に取って代わりつつある。EUの拡大は強大なキリスト教グループの成り立ちである。

EUの次の加盟国計画にトルコが入っている。

一体これは何なのか？

W. チャーチルが提唱した（意図した）欧州連合はこのようなものであったのか？

トルコは地理的に見ると欧州ではない。中世のヨーロッパを支配したオスマントルコの国である。イスラムとキリスト社会の今日への敵対関係を醸成したり、イスラムを“変質”した本家でもあろう。

E U加盟順位と各国の国勢

	国名	国土(千km ²)	人口(万人)	人口密度	加盟年
原加盟国	1 ベルギー	31	383	123.5	1951年
	2 ドイツ	357	8,226	230.4	
	3 フランス	544	5,904	108.5	
	4 イタリア	301	5,784	192.2	
	5 ルクセンブルグ	3	41	136.7	
	6 オランダ	41	1,599	390.0	
一次	7 デンマーク	43	534	124.2	1973年
	8 アイルランド	69	363	52.6	
	9 イギリス	242	6,000	247.9	
二	10 ギリシャ	132	1,056	80.0	1981年
三次	11 ポルトガル	92	1,026	111.5	1986年
	12 スペイン	505	4,012	79.4	
四次	13 オーストリア	84	812	96.7	1995年
	14 フィンランド	338	518	15.3	
	15 スウェーデン	411	888	21.6	
五次	16 キプロス	9	76	84.4	2004年
	17 チェコ	79	1,030	130.4	
	18 エストニア	45	137	30.4	
	19 ハンガリー	93	1,020	109.7	
	20 ラトビア	65	236	36.3	
	21 リトアニア	65	349	53.7	
	22 マルタ	0.3	41	1,366.7	
	23 ポーランド	313	3,864	123.5	
	24 スロバキア	49	538	109.8	
	25 スロベニア	20	199	99.5	
		3931.3	44,636	113.5	
	26 ブルガニア	111	797	71.8	2007年 予定
	27 ルーマニア	238	2,170	91.2	
	28 トルコ	780	6,784	87.0	04 交渉開始

【参考】

	日本	378	12,693	335.8
	東京都	2.2	1,206	5,482
	大阪府	1.9	880	4,632
	横浜市	0.43	353	8,209
	川崎市	0.14	120	8,571

今日の世界の変動の要因でもある十字軍との対戦相手でもある。

イラク進攻でアメリカがイラクを基地として利用しようとして国会の決定と国民の感情が相違した国でもある。

トルコのEU加盟がアラブ圏とキリスト圏（一筋縄ではまとまらないと思うが）との融和に貢献するのなら2000年余りの民族、宗教戦争の改革の期待ができるが・・・

植民地支配のもくろみや経済支配の企てがあれば、世界の状況は更に混迷を招く方向になりはしないか。

オランダの政府機関の要人が、EUが25ヶ国、4.5億人になることを我々日本人に対して誇らしげに語っていた本音はどこにあるのだろうか。

好むと好まざるとに拘わらず世界の権力争いはキリスト／イスラム／ユダヤ、資源の占有、宗教／民族の融合、離散と資本主義が絡み合った“複合社会”に進みつつある。我々の日本人の価値観は孔子の儒教に玄奘三蔵（三蔵法師）によって漢字バージョンに翻訳された仏教の複合文明によって基盤が成り立っている。大乘仏教が今日の日本人の客観性を醸成し、価値観と発想の基盤に成っていると言えよう。

しかし、第二次世界大戦によって物質的貧困を経験した日本人は、“物”、“金”の取得が人生の豊かさと勘違いしてきている。

そのためには宗教、民族文化を無視した「何でもあり」が成功の証となってしまった。世界の多くの人々は“物”、“食物”は民族と宗教の教えに従っている。何でも食べて、何でも着て、何でも商売のネタにしてしまう“日本人”

を“無宗教”、“無国籍”、“民族不詳”、世界の平和が順次進行していると思っている“平和ボケ”している「特殊人」と思っているに違いない。

世界が変遷する中“無宗教”、“無国籍”、“民族不詳”国家はどうして行くのか？

ユダヤ教からキリスト、イスラムへの分化は700年もかかった。そして1300年を経て21世紀を迎えた今日がある。

どうして世界の争いは沈静化しないのか？ 領地の奪い合い？ 資源の奪い合い？ 石油の奪い合い？ 食物の奪い合い？ 水の奪い合い？ 人口の爆発的増加？ 温暖化による生存地の確保？ これらの進化している課題とどう折り合いを付けていくのか？

1. 2億人の“大国”に何ができるのか、何をなさねばならないのか。巨大なEUの成立は今後数百年の新たな民族、宗教紛争の火種にならないことを期待したい。アメリカ1強の今日、イラクを始めとして各地で起こっているテロ事件は千数百年の“イライラ”の発現であろう。

イラク進攻にフランス、ドイツの反対が表面化した背景を熟視したい。

あとがき：

1995年に本誌への寄稿をきっかけにして始まった、古代エジプト文明を今日の近代文明の基点と定義した「トドの詰まり文化論」も年を重ねてきた。

随筆の段階から研究の段階に進化し筆者のライフワークにもなってきた。

「トドの詰まり文化論」は『古代エジプトの地を基点にし、東向きの文化はメソポタミア、ガンジス、揚子江文明の淘汰を通して今日の日本文化を形成しているとした。

一方、西回り「トドの詰まり文化」は古代エジプト時代に権力闘争に敗北・流出した文化はヨーロッパ文明（地中海沿岸文明）の下地となりキリスト教の進展と共に増幅されヨーロッパを通過して、その“エッセンス”は今日のア

メリカ国家の形成となった。』と“大胆”な定義をしている。この認識を元に最近10年余りの今日の世界情勢を見続けてみると、世界的な争いや各国政府の思惑や政治手法が“良く”見えてくる。

※バックナンバーをご所望の方はコピーをお送りします。 E-mail を下さい

参考資料：

- ・外務省ホームページ
- ・EUホームページ

- ・総務省ホームページ
- ・当該市町村ホームページ

菱沼技術士事務所

E-mail: RXP10620@nifty.ne.jp

URL: <http://www.e-hishi.com>

Tel: 044-588-7533, FAX: 044-599-8085

〒212-0054 川崎市幸区小倉 1232

同窓生からのお便り

(平成15年度返信葉書からの転載、都道府県は現住所)

耳がすこし遠くなりましたが、足腰は健在で、旅行を楽しんでいます。高校からの親友で、薬学専攻の田村君の言葉ですが、①かぜをひかない工夫——外から帰ったら、必ず石鹸で手を洗い、うがいを3回以上すること。②飲まず、食わず、働かず(過飲、過食、過労はいけません)。実行は難しいです。孫13名のうち8名が去る7月北海道サロマ湖畔の宿に2泊し、賑やかでした。孫は幼い頃には無条件でかわいいし、大きくなっても、やさしくしてくれて嬉しいです。
(元教員 東京都 吉久 信幸)

同窓会々誌嬉しく拝読いたしました。卒業生諸兄のご活躍、いつもながら大慶に存じます。私も退職してから早くも10年目を迎えましたがおかげ様にて元気しております。今年もまた諸兄にお会いできるのを楽しみにしております。中大に奉職した昭和31年からすでに半世紀近く、その頃の先生方は殆ど在職しておられません、今や新進気鋭の先生方を加え、名実ともに充実されつつあります。電気電子情報通信工学科の益々の発展を祈ります。
(元教員 東京都 深井 昌)

私の老化防止を兼ねて「雑学のタネ本」などを読みあさり、タネを忘れないよう努める他、昭和28年大卒同期入社のOB会(86名、年2回)、同ゴルフ会(年2回)、近所のゴルフ練習場仲間の親睦会(74名、年2回は大型バスで遠征、その他は近辺でコンペ)の幹事をやらされ、楽しくサンデー毎日を過ごしています。
(昭和28年卒 神奈川県 鈴木 克郎)

ボケの母親(98歳)に振り回されています。
(昭和28年卒 埼玉県 竹中 四朗)

60歳定年後、早や15年を経過してしまいました。その後70歳までパート的に勤務しておりましたが、平成5年

妻に先立たれ、一人暮らしとなり70歳迄仕事(パート)を続け、それ以降は旅行やOB会等幹事にて旧友との交流に勤め楽しみにしております。体力的に衰えを感じますが、頑張って暮らせる様願っております。

(昭和29年卒 東京都 山本 憑)

役員の皆様ご苦勞様です。今後とも会の発展のためよろしく願いいたします。今年2月川崎市幸区明るい選挙推進協議会推進委員を移植され、統一地方選挙では、投票管理者を勤めました。また、第43回衆議院議員総選挙では投票立会人を勤めます。

旅行は娘夫婦と家内と4人で上海蘇州へ、また、家内の姉と3人で沖縄(世界遺産めぐり)、会津五稜観賞と趣味の写真を取りながら楽しんでおります。元気な日々をなんとなく忙しく過ごしております。

(昭和31年卒 神奈川県 川喜田 良行)

酸素の少ないところで生きております。仕事のない程、多忙なことはありませんね。新しい時代にあわてないように、はみ出さないよう心がけております。同窓の皆さまのご活躍を日頃期待しております。頑張ってください。

(昭和33年卒 元教員 長野県 市川 友之)

前号で体調を損ないました事を近況報告と致しましたが、目下術後1年を経過しましたが何とか元気にリハビリのために老人スポーツ(グラウンドゴルフ、パーゴルフ)、ゴルフ、水泳などで健康維持を図っております。諸兄も健康には充分御注意下さい。

(昭和34年卒 千葉県 石川 茂)

富士通を脱サラしてフィリピンで企業展開をして早いもので9年が過ぎました。気候は常夏、刺激はテロ、ボケ防止は毎日の英語、自分の楽しみはダイビング、と楽しい毎

日を過ごしています。

フィリピンの技術系大学のレベルは2世代前の状況と言えます。我々の様な古い人間が居ても充分通用する存在価値のある所です。ただ他大学の同校会はマニラにありますが中央大学は無い様なので非常に残念です。

(昭和34年卒 神奈川県 佐々木 裕)

平成15年3月末を以って44年間のサラリーマン生活に終止符をうちました。今後は自分流の生活をと考えています。しかし仕事を終わったら趣味の生活と思っていたのですが、その時になって趣味のみの生活は却って難しいことに気がきました。現役中にサラリーマン終止符後の生涯計画を少なくとも実行していることが必要だと痛感しています。

(昭和34年卒 東京都 塚原 達雄)

平成15年10月で69歳になりました。仕事は忙しくて、漸く手に入れた田舎ハウスに行くのもままならず、果たして幸福なのか不幸なのか・・・

(昭和34年卒 埼玉県 山井次朗)

会場の選定は役員はじめ幹事の皆様のご苦労のひとつと推察しております。今回の会場は今までと少し変わった趣向のものを楽しみにしております。よろしく願いいたします。

(昭和34年卒 神奈川県 渡部 一雄)

郷里福山へ戻り半年、横浜とはちがった生活となっています。時間が取れるようになったので身体の健康を維持することに、知識を増やすことに注力しています。

(昭和35年卒 広島県 重政 弘康)

平成15年8月末、現中央大学々長の住田氏が来福され、板付空港から同行し、佐賀白門会に出席、次の日、唐津、福岡ドーム、大宰府等を御案内して楽しい2日間でした。又、10月30日は、福岡白門会で恒例の中大出身力士の激励会を行いました。電気同窓会には出席出来ず申し訳ありません。皆様によろしく。

(昭和35年卒 福岡県 新開 盛治)

40号同窓会誌、築山教授の「本学の教育に関する私見」は大変興味深く読ませて頂きました。私も大学の仕事柄痛感していますが、今の大学生の多くは考えが甘く高校4～7年生の間隔があります。少なくとも中大本学部の教育は前向きに先端技術志向の研究大学を目指してほしいと私は思います。研究志向か専門学校志向かは学生が授業で選択すれば良いのではないのでしょうか。

(昭和35年卒 埼玉県 田伏 良雄)

SARSでの遅れを挽回すべく、9月は2回訪中しました。①北京環境会議では、延慶県中日生態モデル村の施工計画書をまとめ上げました。来年からは建設実施予定。②青海大学との共同研究にテーマ候補を申請中。

(昭和35年卒 神奈川県 橋村 武司)

古希の記念にと北海道の大雪山系旭岳・黒岳と登山した。高山植物の花々・・・感激した。健康のためのゴルフも続けています・・・若い時のスコア中心でなく親睦を心掛けてのゴルフを・・・体調に気を付け・無理をしないこと。

(昭和35年卒 茨城県 村井 康男)

幹事さん毎年大変御苦労様です。来年もよろしく願いいたします。

(昭和37年卒 神奈川県 江波戸 勝樹)

子供に囲碁を教えながら、自らも楽しんでおります。

(昭和37年卒 千葉県 米倉 孝榮)

平成15年6月25日付にて退任致しました。残された人生、妻の介護をしながら笑顔でのんびりと生活してまいります。

(昭和38年卒 東京都 五本 武)

8月に待ちに待った定年を迎えた。あれもしようこれもしようと期待していたが、いざ、サンデー毎日になってみると、ちょっと拍子抜けの感じ。でも徐々に調子を上げようと行動を起こしつつある今日この頃です。

(昭和38年卒 富山県 戸田 紀良)

卒業後 40 年、退社後 8 年半、現在は時間を大切に、年間、磯釣 50 日、ゴルフ 20 日、スキー10 日以上を目標にして生活を楽しんでいます。

10 月 31 日には電気 38 ゴルフコンペに参加しました。
(昭和 38 年卒 栃木県 山本 立夫)

電力会社勤務を経て、引続きコンクリートメーカーの経営に携わっているが依然として厳しい経営環境が続いており、日夜業務全般でのコストダウンに努めている。同窓生や現役中大生のいろいろな分野での活躍は私にとっても大変な励みとなっている。

(昭和 39 年卒 埼玉県 齊藤 榮喜)

一昨年定年退職後、2 年になります。娘、息子も巣立ち、再び夫婦だけの生活が始まっています。静かな毎日です。同窓のご活躍・御健康を祈ります。

(昭和 40 年卒 東京都 坂本 吉通)

2002 年 11 月定年となり、その後は会社と業務委託契約を結び、機械開発のアドバイスと若手技術者への教育を行っています。もうしばらくの山梨での単身生活が続きます。

(昭和 40 年卒 埼玉県 門原 健男)

平成 14 年 12 月 5 日トッパン・フォームズ・オペレーション(株)を 60 歳定年退職し約 10 ヶ月、お蔭様で元気で今迄出来なかった事を気ままにやって過ごしています。

(昭和 41 年卒 千葉県 富田 紘志)

今年 6 月末に腰椎圧迫骨折してしまい、1 ヶ月会社を休みました。3 ヶ月は上半身にギブスを着けたままの生活でした。今も重い物を持つことは控えています。会社を 1 ヶ月もの長期休暇は初めてで、妻と 1 日中一緒にの生活もどうなるものかと思いました。テレビの放送大学や本で「コンピュータと数学」「環境とエネルギー」「中小企業の挑戦」「ブッシュ政権の政策」「アメリカの軍需産業」「世界の水問題」等、種々のことを興味深く学び充電することができました。
(昭和 42 年卒 千葉県 秋田 隆史)

平成 16 年 3 月末に神奈川県職員を退職となります。(37 年間勤務) (昭和 42 年卒 神奈川県 栗原 薫光)

15 年 10 月 1 日都庁を退職して、電気主任技術者としてフレッシュスタートしました。

(昭和 42 年卒 埼玉県 西尾 英臣)

平成 14 年 8 月末日、42 年間の会社勤めを無事終えて、目下①趣味(切手収集、J P S 千葉支部長)②後援会(大相撲・武蔵川部屋・出島関)③同窓会(金市工高校同窓会・関東支部長)④旅行会(東電 36 会・会長)などのボランティア活動で忙しい毎日を過ごしています。お蔭様で病気、けがもなく元気で動けることが幸せです。

(昭和 43 年卒 千葉県 中村 雅喜)

電気業界を離れて 30 年、テニス業界にて頑張っています。会員制テニスクラブを創業して本年度で 30 年です。前向きに今後も取組んで行きます。

(昭和 44 年卒 神奈川県 坂田 祐治)

少子化の影響を受けて、私の勤務する大学も雑用が多くなりました。
(昭和 44 年卒 栃木県 谷澤 茂)

同窓会の日には私共行政書士主催の街頭相談会と重なってしまい残念ながら欠席することになりました。私共の多摩北部での街頭相談で受ける 7 割が遺言相談に関するもので、遺言の書き方から、特定の人に財産分けをするにはどのようにするのかなど、様々です。相談とは、その人が歩んできた人生そのものを現しているのではないのでしょうか。今年 7 月他界された恩師榊原先生のご冥福をお祈りします。

(昭和 45 年卒 東京都 保坂 早苗)

仕事が忙しく(といってもパートですが)今月は週休 1 日の週が続き、少し疲れぎみです。来月も危ないもんで体調管理が大変です。皆さんもカゼなどひかないように。

(昭和 56 年卒 東京都 高橋 洋子)

カーボンブラシ、接点を製造する会社をやっております。
無くなる無くなると言われておりますが、なかなか無く
りませんね。(昭和 60 年卒 埼玉県 手塚 賢司)

卒業後は電気電子関連から離れ、ネットワークやシステ
ム関連の業務に携わっております。様々な新しい技術に追
いついていくことに精一杯で技術をビジネスに落としこむ
ことの難しさを痛感しております。皆様の御健康と御多幸
をお祈り申し上げます。
(平成 7 年卒 東京都 瀬田 英太郎)

今般は会誌への御掲載ありがとうございました。先日、
新 3 号館を見てきました。立派ですね!!
また、猪狩先生が退職されたのにビックリしました。先

生には研究室で大変お世話になりました。また会誌を今回
読んでみましたが大変おもしろかったです。これからも宜
しくお願い致します。

(平成 12 年卒 宮城県 高橋 寛治)

《 事務局から 》

今年も多数の皆様から、貴重なご意見や近況を頂きあり
がとうございます。お寄せいただきましたコメント、ご意
見は、誤字・脱字を訂正したのみで、文字使いや言いまわ
しをそのまま転載しました。

1 年後の掲載となりますが、会員相互の交流の場として、
今後もこの企画を続けますのでご支援下さい。

《 編集後記 》

同窓会創立 50 周年記念号をお届けします。昭和 30 年 (1955 年) 広瀬敬一先生を初代会長に
創立さ
れ、歴代の会長、役員、常任幹事、幹事の皆様のご尽力により、一時の財政基盤の逼迫による
存続の
危機を脱却し、会員の皆様のご芳志を受けて現在まで本会が存続出来たことを心より感謝いた
します。

「同窓会 50 年のあゆみ」の編纂は、小林健一先生、遠藤正雄先生が大事に保管されていた
会誌の
全巻をご提供いただき大変役に立ちました。ありがとうございました。

中大電気同窓会会誌 同窓会創立 50 周年記念号 第 41 号

発行所：中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8551 東京都文京区春日 1 丁目 1 3 番 2 7 号

FAX : (03) 3817-1847

URL : <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qindex.htm>

2004 年 10 月 1 日発行

編集・発行人 天野 浩 志

同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成16年度「同窓会総会」を下記の通り開催します。本年度の総会では、役員改選・会則の一部改訂について審議していただきます。また、総会終了後には「懇親会」を開催いたしますので、多数の会員の皆様にご出席賜りたくご案内申し上げます。

【 記 】

★ 総会ならびに懇親会

日 時：平成16年11月13日（土） 12：00 ～ 15：00
会 場：上野 精養軒 梅の間
住 所：東京都台東区上野公園4番58号
電 話：（03）3821-2181
受 付：午前11時30分 受付開始
会 費：7,000円
総 会：12：00 ～ 12：30
懇親会：12：45 ～ 15：00

★ 会場のご案内



会場へのアクセス

- ① JR上野駅公園口・・・徒歩5分
- ② 京成上野駅・・・徒歩5分
- ③ 地下鉄上野駅・・・徒歩8分
- ④ 地下鉄御徒町駅・・・徒歩12分

返信葉書は、10月末日必着で投函下さい